

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年3月25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271200679		
法人名	特定非営利活動法人 ハピネス福祉会		
事業所名	グループホーム琴の海		
所在地	〒859-3808 長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷 884-1		
自己評価作成日	平成25年2月10日	評価結果市町受理日	平成25年3月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&figyosyoCd=4271200679-00&PrefCd=42&VersionCd=022
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号
訪問調査日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

室内は杉の木を使用した木造平屋作りの建物で、リビングからみかん畑や大村湾を見渡せ、中庭は季節の木や花が植栽された、明るく開放的な居住空間である。また、キッチンからリビングの様子が見渡せ、利用者とのコミュニケーションも図られている。定期的に避難訓練を実施し、地域住民との密接な連携体制ができ、安心安全な暮らしに努めている。ホームでは各種イベントを開催し、多くの人と交流の機会を設け、利用者は充実した豊かな生活を送られている。スタッフは家族や地域の方がいつでも気軽にきて頂けるような雰囲気作りを心掛けています。日々、皆様の健康維持に努め、脳の活性化の為に学習療法（読み・書き・計算）を取り入れ、スタッフと入所者様は毎日をいきいきと楽しく過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

大村湾から程近い田畑の広がる地帯の一角に位置しており、木造平屋造りの建物は周囲の景色や住宅に溶け込んでいます。ホームと地域の方々との結びつきが強く、ホームは近所の方々や散歩途中の保育園児も気軽に立ち寄れる憩いの場所となっています。

ホーム長が自分の家族を安心して任せられる施設を求めていたことがきっかけで開設された経緯があり、職員は利用者や家族の心情を親身になって考え、常に寄り添う気持ちを忘れずに日々のケアに当たられています。職員同士の仲も良く、利用者を含めた大きな家族のように考えられており、日々安らぎと温もりが感じられるよう支援されています。

(別紙2-2)

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人ひとりが、ホームの理念「共に喜び、共に悲しむ」を共有して目指すべきケアの実践に努めている。	この理念はホーム長が考えたもので玄関にも掲示されており職員には深く浸透しています。職員は理念の言葉を大切にしながら利用者の心に寄り添う気持ちでケアに当たられています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事（誕生会・敬老会・クリスマス会）などを通して、地域の方と交流を行っている。また近隣の方からの野菜や果物の差し入れもある。中学生の職場体験学習の受け入れも行い、異世代との交流も図っている。	近所の方をホームのクリスマス会に招待したり、色々なボランティアをして頂いたり地域との関係は良好です。小学生の演奏会や中学生の職業体験など子どもたちとの交流も盛んに行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、火災時の避難訓練などを通じて、ホームのあり方や認知症の方への支援方法などを理解して頂けるよう努めている。認知症家族の会への参加を行い家族からの不安の緩和に努めた。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現状を話したり、見て頂くことで、運営推進委員の方々に理解して頂いている。また、超高齢化にあるこの町の現状を意見交換し、今後求められる福祉サービスの充実の為に努めている。	会議は2カ月に1度開催されています。出席者の様々な視点から出される意見は、検討され運営に反映されています。家族会と併せて休日に行われることもあります。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや福祉課の方と連絡を取り、協力関係を築いている。町主催の認知症家族の会等にも出席し、協力関係を築いている。	報告や相談などで役場にもよく足を運ばれています。役場の担当者とは日頃から連携が図られており、情報も共有されています。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>利用者の方の人権を守り、身体拘束をしない方針でサービスを行っている。玄関は施錠しない。緊急やむを得ず身体拘束が必要な場合は、本人・家族等へ説明を行い同意を得ている。</p>	<p>内部で勉強会を行ったり、外部研修に参加したりと身体拘束の正しい理解に努められています。利用者の多動や不穏の原因を探り、根本的な解決を図る為の話合いも行われています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年1回学習会を行い、虐待の防止の徹底に努めている。利用者からスタッフがつけられたり、爪を立てられたりする事があるが、スタッフは、感情をコントロールすることを学び、虐待は行っていない。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>カンファレンスや勉強会を行い制度を理解している。成年後見制度を利用されている方が1名おられ、成年後見人の方との連携を通して、本人がよりよく生活されるような協力関係がある。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、法改正時の際は家族に説明し、了解して頂けるように努めている。H24年4月より夜間ケア加算等の変更があったが、事前に説明し同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設置しており、家族の方の意見等を聞き反映させている。また来所された折にもお話を聞き意見を反映させている。</p>	<p>年に2度の家族会や面会時に意見や要望を聴取され、何気ない雑談の中からも家族が望んでいることを捉えることが出来るよう努められています。また、要望などへの対応も迅速です。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のカンファレンスで勤務の希望や人員等、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映されている。お互いに意見を言い合える関係を築き利用者のサービス向上に繋げている。</p>	<p>日頃から職員の意見やアイデアには耳を傾けられ、意見を言い易い環境が作られています。また働きやすい職場にする為の意見は大切にされており、改善に努められています。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務年数や経験を活かした役割を持って仕事をしている。キャリアパス規程を設けている。職員の休憩時間の確保に努め、働きやすい環境作りをしている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験年数や能力に応じて、施設外の研修も受講してもらっている。また施設では外部講師を招き学習会を行った。経験年数から資格取得を目標にスタッフ同士で学んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>月に1回、グループホーム交流会を行い、専門職同士が集まり意見交換など行っている。また他の施設見学等を行い交流を深めている。</p>		
<p>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前にケアマネ、家族から利用者の情報提供を受け事前にスタッフ間で情報を共有している。結果、入所後に利用者のニーズに沿ったサービスを提供でき、安心感が得られている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスに関して家族からの要望に可能な限り応えている。例としては、家族の寝泊り、病院受診を行っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>利用者の身体状況や精神状況を考慮して、受け入れを判断している。事前情報、入所後の状況からアセスメントし、利用者の日常生活がスムーズにいくよう支援に努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やレクリエーションを共にし、喜び楽しみを共有している。事務作業においても側で行うようにしている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日を家族と共に祝うことにしている。また、毎月の生活を記録した報告書を家族に送り、交流を図っている。更に、ホームではイベントを行い、利用者、家族間の交流の場を設けている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1～2回、地域の方が季節の花を活けて下さる。週に3回、学習療法の指導サポーターとしてお手伝いして頂いている。利用者には、馴染みの人との会話を喜ばれている。	来客が訪れやすい雰囲気づくりが行われ、友人や以前住んでいた近所の方との交流が継続できるよう支援されています。また、散歩の際に、自宅の田んぼの稲の成長を見に行くなどの取り組みも見られます。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感情の変化を観察し、利用者同士が（新利用者には特に注意し）良い関係を保てるよう気を配り支援に努めている。利用者同士の相性なども考慮し、席の配置をしている。喧嘩等の時は介入し、悪化防止に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方と連絡を取り、現在の状況を尋ねて必要に応じては相談や支援に努めている。退所後もホームにも来所しやすいよう関係を大切にしている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話の中で、その方の思いや要望に対してすぐに対応して願いを叶えている。家族に関わる願いであれば家族に伝え、実現できるように働きかけている。	利用者の発した言葉を大切にしながら、そこから思いを汲み取るように努められています。利用者ごとの生活のリズムも尊重され、それぞれがマイペースで過ごされています。	

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所時の利用者の状態を観察したり、家族から情報提供、今までの介護ケアプラン及びケース記録等により、これまでの生活状況の把握に努めている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>その方の身体的、精神的な能力レベルに応じた運動や作業を取り入れることで、現状の把握に努めている。</p>		
26	<p>10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、医療機関の意見等を合わせた施設サービス計画表が作成され、カンファレンスで話し合い、現状に即した介護計画を実施している。</p>	<p>家族や本人の意向を一番に考え、職員間で意見を出し合い作り上げられています。プランは、会議の後にケアマネージャーにより作成され、再度の話し合いにより確定されています。</p>	
27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>スタッフは日々の様子を介護記録に記入している。状態の変化があれば、ホーム長やスタッフ間で検討をし、必要があればカンファレンスを実施し話し合い、家族にも連絡を入れる。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>経管栄養の状態の方や重度化された状態の方でも、医療との連携により受け入れ可能である。家族が一時帰宅や宿泊を希望されれば、希望に沿った対応をして、家族も共に支える姿勢で取り組んでいる。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>学習療法（読み、書き、計算）の指導にボランティアで地域の方に来て頂き、利用者はいきいきとした表情で楽しく取り組まれている。毎年、日舞やコーラス、楽器の演奏にも来て頂き利用者は楽しみにされている。</p>		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人及び家族の希望を聞き、担当医を決めている。月1～2回の往診をして頂いている。事前に連絡を入れ、往診時スムーズにいくよう医療側と連携をとっている。</p>	<p>本人や家族の意向を重視され、希望があればかかりつけ医の継続受診も可能です。各医療機関との連携が出来ており、夜間休日でも連絡が取れる体制になっています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師はスタッフからの情報、観察等により本人の健康管理を行っている。状態観察により主治医の診察が必要な時は病院受診し、治療を受けて頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院が必要となった場合は家族と連絡し、医師の状態説明を聞いて頂く。入院の準備はホームで行い、入院生活に支障がないよう配慮している。ホームでの本人の状況を病院関係者に説明し、本人及び病院関係者が困らないように説明している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の説明時に重度化対応や、看取り指針等の説明も行っている。家族の希望を受けホームでは、現在までに7名の方を看取った。</p>	<p>これまでに看取りの経験を積まれており、最後までその人らしくあるように心掛け、きめ細やかなケアが行われています。終末期には家族の泊りも可能であり、精神面でのサポートも行われています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故が発生した場合は、ホーム長に連絡し、利用者を安全・安楽な体位にし、初期対応を行うようにしている。事故対応マニュアルを頭に入れ、職員は落ち着いて対処できる様心掛けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災を想定して、年2回避難訓練を実施している。災害時対応マニュアルや防災マップ、避難場所を確認し危険区域を把握している。火災チェック表の確認を行い日々防災意識もっている。</p>	<p>地域住民が参加される消防避難訓練が行われ、スプリンクラー設置など消火設備も整えられています。自然災害に備え対策を立てたり、食料や水の備蓄等も行われています。</p>	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を持って言葉掛けや対応を行っている。またスタッフ間でも言葉遣いや態度に意識して努めている。	接遇マナーの講師を招いての研修も行われており、言葉遣いなど職員同士でも気をつけながら節度のある対応を心掛けられています。入浴や排泄の場面では羞恥心に配慮しての支援に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮等から御自分の思いを伝えられない方、目の遠い方等、表情や態度などを見ながら、声掛け・ジェスチャーなど行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝られる時、休まれる時、起きられる時も仕事優先ではなく、一人ひとりのペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで服を選んで頂いたり、本人や家族の希望があれば、カット、ヘアカラーをしてその方らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立は一人ひとりの好み、栄養バランスを考え季節の物を取り入れた献立を作成している。また一人ひとりの咀嚼、嚥下機能、歯の状態を考え食べやすい形態にし摂取して頂くよう努めている。	献立はなるべく多くの種類の野菜や果物が摂取出来る様に考えられています。近くにホーム長の家族所有の畑があり、利用者は自ら畑で収穫した旬の野菜を楽しむことが出来ます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、利用者の一般状態を見て、食べる量、水分量など考えて支援している。		

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、舌ブラシ、スポンジ、歯ブラシで口腔ケアを行っている。うがいにはお茶を使用し、口の殺菌・口臭予防に努めている。また歯磨きには、人体に害がないものを使用し、毎夜洗浄剤で除菌している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>個別の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。失敗された時は速やかに衣服を交換している。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立支援に努めている。</p>	<p>日中はなるべく布パンツやリハビリパンツで過ごして頂き、トイレに座って自力で排泄できるようよう支援されています。薬を服用する場合は動きや回数などに特に気をつけられています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食物繊維の豊富な食品、乳製品を毎日の献立に取り入れている。運動や腹部マッサージも行っているが、それでも改善されない時は薬を服用される方がいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>月曜日以外、1日3人の方に入浴して頂いている。利用者の状況により柔軟に対応している。個別にも楽しく入って頂けるよう、音楽を提供したり声掛け等も工夫している。</p>	<p>保湿効果のある泡風呂を提供されており、入浴剤やシャンプー等は皮膚への刺激の少ない物を選ばれています。脱衣場には陰洗や清拭用の専用レンジやポットも備えられています。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>昼間は利用者の身体状況に応じてベッドやソファで休んで頂いている。テレビを見て過ごされる方には、座り心地、安楽を配慮している。睡眠に不安のある利用者で、眠剤服用の方は2名おられる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>殆どの方が薬を服用されている。なぜその薬を服用されているのか、薬の目的、作用、副作用等を把握し服薬支援を行い経過観察に努めている。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとり、出来る事を活かしたお手伝いをして頂いている。音楽をかけ、みんなで歌を歌ったりして楽しんでも頂いている。ホーム周辺の散歩にも出かけたり、年に1度は、バイキング、花見、茶市等に出掛け気分転換も図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>気候のよい日は利用者に促し、外に散歩に出掛けている。家族の希望があれば外出、外泊もされている。</p>	<p>彼杵茶市での買物やバイキングレストランでの外食など、様々な外出支援が行われており、利用者も楽しみにされています。ホーム周辺の田畑の中の小道は交通量も少なく、散歩に最適です。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者の能力に応じてお金をもって頂いたり、職員がサポートすることで、お祭りや外出など買い物を楽しんで頂けるよう支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族からの電話に出る事ができる方は、お話をさせて頂いている。または、スタッフが手伝い、利用者から家族に電話することもある。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングでは懐かしい童謡などを流し、いつでも中庭の花々が見渡せることができる。手創りカレンダー等で季節感を取り入れる工夫をしている。また、地域の方が描かれた、花や風景画などの展示もしている。</p>	<p>日当たりの良いリビングは木の温もりを感じる造りで、居心地の良い空間となっています。気候が良い時期は、ウッドデッキで心地よい風を感じながら海を眺めることも出来ます。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓の座席は、気の合う方、合わない方を考慮して決めている。また、リビングのソファの位置も一人一人がくつろげるように配慮し工夫している。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大切にされている物や使い慣れた衣服、布団類を持って来て頂いている。居室には誕生会の写真や貼る、御家族や楽しい思い出の写真がいつでもご覧になれるよう明るい雰囲気にして整理整頓にも気を付けている。	居室への持込みは自由とされており、愛着のある家具や小物で自分だけの落ち着いた空間が作られています。職員は利用者の性格に応じ、配置や飾り付けの手伝いをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を考え、椅子やベッドの種類を変えている。また、夜間のトイレが困らないようにポータブルトイレを利用して頂いている。夜間の転倒落下が気になる方にはマットレス等を敷き、身体拘束ゼロを目指す工夫をしている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない